



【構想の概要】

本構想は、早稲田大学創設者が掲げていた「東西文明の調和」という理念に基づき、今後の国際社会において様々な分野で強いリーダーシップを発揮できる人物を育成するプログラムである。米国東部の3大学と西部2大学の計5大学との協働教育により、本学学部生のみならず米大学の学部生を将来の世界のリーダーへと育成していく。

【プログラムの目的・養成する人材像】

プログラムの目的: アジアの台頭により、世界の経済・政治・文化はますます多極化し、一つの国だけの問題でない地球規模の問題への取組が急務となっている。こうした世界において、東洋と西洋両方の歴史、文化、社会を熟知し、その価値観を理解し、互いに尊敬・尊重しあううえで優れた判断や意思決定を行うことができる人物を育てる。

養成する人材像: 『東西文明の調和』のスピリットを持ったグローバル・リーダー

東洋・西洋の歴史・文化・社会等の知識

世界共通の高貴な価値観・勇気・奉仕・貢献

知的能力・人間力・コミュニケーション能力

地球規模の様々な問題を自ら提起し解決する
国際/政府機関・財界・アカデミクス等
各界でリーダーシップを発揮できる人物

実施した交流プログラム概要／準備状況

米国パートナー校訪問&合同推進会議の実施

・米相手校5大学(コロンビア大学、ジョージタウン大学、ペンシルベニア大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学)への本プログラムの説明と議論の場を設けるため、各校を訪問し、今後の課題認識をすり合わせ、協力関係の強化につなげた。

・上記を受け、H23年3月に米相手校5大学より合計9名の教職員を日本に招致し、2日間の合同推進会議を実施した。積極的な意見・情報交換を行い、プログラム実施に向け全参加校が目的・課題を共有し決起する良い機会となった。H24年度においても、早速6月に継続協議の機会を設けることが決定している。



カリキュラムの検討

『グローバル・リーダーシップ学』副専攻科目の拡充に加え、導入教育科目、受入学生受講可能専門科目および日米合同ゼミの運営方法、研究テーマの検討を学内各学部と共に開始した。また派遣学生の選考基準、一期生に関する選考スケジュールの検討も行う。

本プログラム・コーディネーター(教員)・事務職員配置

本プログラムの運営、学生の指導に従事する任期付専用教員を国際公募により採用した。また当該教員と派遣・受入学生の支援、プログラムの運営に携わる職員2名を配置した。

教育内容の可視化・成果の普及

教育内容の可視化

・『グローバル・リーダーシップ学(GLS)』を全学部学生向けに全学共通の副専攻科目として新設。文系・理系問わず幅広い層の学部生に英語による講義を行っている。

・『グローバル・リーダーのための政治経済ビジネス入門』においては、190人を超える学生が受講する等、全科目で定員を超える登録があり、合計で432名の学生がGLS科目を履修している。

・学内におけるGLS副専攻の認知度は高く、来年度はGLS科目履修者の多くが本プログラムを通して米国5大学に留学する見込みである。
・学部・関係箇所より委員を選出しカリキュラム検討委員会を発足。英語による提供科目の中からGLS提供科目を抽出・検討している。
・一部授業のオンデマンド化に向けた準備を開始した。

科目	総合計
Language and Society	30
Shinto in Japanese History and Culture 01	25
The New Religions and Violence	25
グローバルリーダーのための比較文化入門	25
グローバルリーダー入門	63
Religion and Society in Modern Japan 01	26
Japanese Business and Global Management 01	47
グローバルリーダーのための政治・経済・ビジネス入門01	191
合計	432

プログラム・成果の普及

・広報物を日英両言語で作成、学内外への認知拡大・情報発信を行った。
・新入生オリエンテーションや留学説明会で当プログラム概要を説明した。
・専用HPを開設し、SNS(facebookおよびtwitter)も活用し、プログラムの内容を積極発信している。



学生の派遣・受入を促進するための環境整備

派遣・受入ともに専任の教育アドバイザー(教員)と事務職員2名がサポートを行う。

派遣学生へのサポート

留学前の準備教育、出願・渡航準備から、留学中の相手校事務室と連携した修学支援、帰国後のフォロー教育までGLP事務局での一貫したサポート体制を準備する。

受入学生へのサポート

留学生の在籍管理、修学支援、生活・学生寮のサポートから、インターンシップまで、ワンストップサービスをGLP事務局が提供する。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H24年入学者より12名のグローバル・トップ・リーダー候補の学生を選考、H25年より毎年米国相手校に派遣する。

外国人留学生の受入

H26年より米国相手校より12名の学生を受入れ、米国留学を終えた本学の学生と日米合同ゼミに参加する。

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	—	10*	12	12	12
受入	—	10*	10*	12	12

*本プログラム開始に先立ち、既存の交換協定に基づき交流開始

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

プログラム合同推進委員会発足

本学および米相手校5大学の教員と職員で構成されるプログラム合同推進委員会を発足し、第一回会合をH23年3月に実施した。

- ・学生の履修に支障がないカリキュラムモデルの策定、単位の相互認定、成績管理、学位授与についての検討を開始した。
- ・相手校にも当プログラム担当教員・職員の設置を依頼し、派遣前・派遣中・帰国後の科目履修や研究実施について、本学プログラム・コーディネーターと共に指導を行い、質の維持・向上を目指す。
- ・アカデミック・カレンダーの違いを活用した本学と相手校間での教員招聘について協議を開始。本プログラムに参加する日米学生へのチーム・ティーチングの可能性を検討している。
- ・『グローバル・リーダーシップ学』副専攻科目授業のオンデマンド化推進に際し、米相手校5大学への配信も検討を開始、カリキュラムの質の共有化を進めていく予定である。